

10. 鋳物師と梵鐘とまいまいず井戸の話

桜沢孝平著

武蔵野郷土史研究会（1981）

四六判 p.152

定価 850 円



目次

序文

はじめに

鋳物師（いもじ）の祖、鋳物師の里五ノ神村、幻の梵鐘を追って、古記録に残されていた梵鐘、大田南畝の「調布日記」、鋳物師の許状と座法、梵鐘鑄造のもよう、鋳物師遺跡と痕跡、鋳物師のルーツを尋ねて（1）、（2）、鋳物師の村の成立理由、関東近県の古鐘と五ノ神鋳物師の作品、五ノ神鋳物師のあしあと、梵鐘余聞（（1）戦争と梵鐘、（2）鋳工失敗のこと、（3）百年目に現れた梵鐘）、五ノ神まいまいず井戸、武蔵野の古井戸、堀兼井戸のこと、七曲り井の復元と修復請願文書、五ノ神まいまいず井の再考証、製鉄業者と水霊信仰、鋳物師神と熊野修験、終章（1）、（2）付記、（1）上総堀井戸と井戸普請留帳、（2）まいまいず井戸数え唄、終わりに

紹介コメント

著者は、東京都羽村町(現 羽村市)の羽村郷土研究会会長で、多摩の地方史の研究を長年されている方である。武蔵野台地の地下水を話題にする時には、必ず羽村の「まいまいず井戸」のことができます。ここでは、鋳物師がこの土地に井戸を掘って定着し、鋳工を営みつつも時代の流れにより衰退していく宿命の中で、農業を行うことで離散せずに今日に至る過程が示されている。まいまいず井戸の歴史的な面の解説がされて、周辺のある同様な井戸についても写真を掲載して紹介している。